

第18回

発掘展

～夏休み！子どものための考古学～



西暦672年、古代史上の大乱である壬申の乱が起り、のちに天武天皇となる大海人皇子と大友皇子が争いました。吉野で仏教修行をしていた大海人皇子を大友皇子側が滅ぼそうとしているとの報に、皇子は吉野を逃れ、伊賀を越え、まさに朝明郡に至ったところで、雲間から出てきた太陽をお祈りをしたという記録があります。

久留倍官衙遺跡の門や建物が東向きに建てられているのは、このことになんで、太陽が出る方向を意識して建てられたとも考えられています。

また、740年に聖武天皇が来られたゆかりの地とするむきもあります。

やよいじだい くるべいせき 弥生時代の久留倍遺跡

(約2,000年前)

おおやち
市内大矢知町で見つかった遺跡
で、弥生時代（約2,000年前）
にあったムラの一つが確認され
ています。

久留倍遺跡では、当時の人び
とが生活に使っていた道具類が
数多く見つかっています。なか
でも、銅鐸の舌が見つかったこ
とはとても重要です。銅鐸は、
弥生時代の農耕にまつわる儀式
に使われた青銅器と言われてい
ます。



銅鐸の舌とは？

音を鳴らすために、銅鐸
の内部に振り子のように取
り付けられた部品です。

これが舌

四日市市立博物館蔵

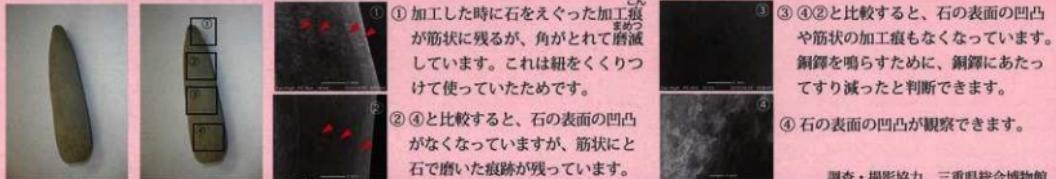
久留倍遺跡の銅鐸の舌

長さ8.8cm、最大径2.1cm、重さ52.2g
で砂質砂岩という石が加工されています。

上部がえぐり込まれており、その部分に
ひも紐をくくりつけて、銅鐸の内部に取り付け
ていたと考えられます。右の丸数字の写真
は、電子顕微鏡で詳しく調べた様子です。



弥生時代の久留倍遺跡の様子



① 加工した時に石をえぐった加工痕
が筋状に残るが、角がとれて磨滅
しています。これは紐をくくりつ
けて使っていたためです。

② ④と比較すると、石の表面の凹凸
がなくなっていますが、筋状にと
して石で磨いた痕跡が残っています。

③ ④と比較すると、石の表面の凹凸
や筋状の加工痕もなくなっています。
銅鐸を鳴らすために、銅鐸にあたっ
てすり減ったと判断できます。

④ 石の表面の凹凸が観察できます。

な ら へいあんじだい く る べかんがいせき
奈良・平安時代の久留倍官衙遺跡

(約 1,300 ~ 800 年前)

久留倍遺跡のなかでも、特に奈良・平安時代（約 1,300 ~ 800 年前）の役所あとは重要な遺跡であることから国の史跡に指定されました。

国の史跡に指定された部分を久留倍官衙遺跡と呼んでいます。

現在、史跡公園として工事を行っています。



完成後の公園のイメージ



えんめんけん
円面 砨

奈良時代の円形の硯です。
1点のかけら（右下）しか見つからていませんが貴重品です。（左上はレプリカ）



でんようけん
転用 砨

容器のふたとして作られた土器ですが、硯は貴重品でしたので、下級役人たちは、代わりに容器のふたをひっくりかえして使っていました。

墨が付いているので、土器が黒ずんでいます。



当時の役所での仕事イメージ



建ちならぶ正倉群と区画溝の様子（右端の溝が区画溝の一辺）

えど よかいちだいかんしょあと
江戸時代の四日市代官所跡

(約410～150年前)

現在の市内中心部は、享保9（1724）
年～享和元（1801）年の大和郡山藩（今
奈良県）領時代を除くと江戸時代を通
じて天領（幕府領）でした。

四日市代官所は幕府領支配の拠点で、
市内北町の中部西小学校の場所にありました。なお、代官所の建物は明治時代に
なると、三重県庁等として使われていま
したが、明治9（1876）年にすべて焼
失しました。



明治時代に描かれた代官所の絵

四日市市立博物館蔵

第18回 発掘展～夏休み！子どものための考古学～

- ◆会期 平成27年7月29日（水）～8月23日（日）
- ◆場所 四日市市立図書館 2階展示コーナー
- ◆編集 四日市市教育委員会 社会教育課
- ◆発行 四日市市教育委員会 平成27年7月29日



代官所の堀にかかっていた橋の橋脚（手前が代官所）



入れ歯（レプリカ）

ツゲの木で作られた入れ歯です。大きさから女性用歯と推定されています。



茶碗

唐草模様の茶碗です。黒い筋は、漆をぬって火であることによって接着した痕で、焼きつぎと呼んでいます。